

図書館forum

2021年3月
No.18

- 01 withコロナ 図書館長緊急インタビュー
- 03 図書館 withコロナ2020
- 05 これは使える！知っとくとお得なサービス
- 07 新登場の電子リソース
- 09 ようこそ本の世界へ(4)
新書を読もう 膽吹 覚
- 11 福井大学附属図書館所蔵「小島家文書」を読む(8)
絵図をつくる人びと 長谷川 裕子
- 13 学生・教員とのコラボ企画
- 15 RECOMMEND BOOKS
- 17 研究室リレー紹介
- 18 福井大学リポジトリとは
- 19 教員著書寄贈とご寄附



the director of a library Urgent Interview SHIN-ICHIRO SUYE

with コロナ 図書館長緊急インタビュー

福井大学附属図書館長 末 信一郎

理事（研究、産学・社会連携担当）／副学長
2019年度から2度目の附属図書館長に就任
1958年 愛知県生まれ 本籍：大分県（大分県指定文化財 丸尾城址所有）
東京農工大学大学院卒 京都伏見の酒造会社研究員、高専教員を経て、福井大学へ
専門：バイオナノテクノロジー
愛読書：「岬にての物語」三島由紀夫著 詳細は本誌15号参照
コロナ禍で変わったこと：我が家に猫が来ました



コロナ禍の今だからできること

図書館長自身、コロナ禍の2020年を振り返っていかがだったでしょうか？

まだコロナ禍の真っ最中であり、振り返ってみる余裕がないというのが本音ですが、これまでの生活様式や考え方が大きく変わったことは確かです。大学の講義ではオンラインやオンデマンドの講義が当たり前となり、そのために多くの先生方が大変な努力をされてコンテンツを作成して講義に臨んでいる状況です。私自身も担当講義のオンライン用、オンデマンド用の教材を作成しましたが実際の講義の何倍もの手間がかかりメンテナンスにも大変苦労しました。しかも講義は一方通行であり、苦労して作ったコンテンツも学生から見た評価も全く分からないまま終

わってしまったのは大変残念に思っています。Web授業に対する意見は様々ですが、このようにして作成されたコンテンツをアーカイブ化することは非常に重要だと考えています。

本学の「学びのスタイル」の変化についてどう思われますか？

学びのスタイルが同様に大きく変わったことは、われわれ教員に限らず学生諸君も大いに感じていることでしょう。これまで積み上げてきた価値観や様式ががらりと変わってしまい、従来からの日常が非日常となってしまふことはとても大きな衝撃です。人類にとっては、このような変革がパンデミックや戦争などによって不連続に起きていたのでしょね。これまでの我々は長い歴

史の中の変革と変革の狭間の中に虚飾の繁栄を享受していただけなのかもしれません。

コロナ禍での本学図書館についてどう思われますか？

第一波の時は、すべてが閉鎖される中、本学図書館も開館時間を縮減して対応していましたが、コロナ対策を実施したうえで開館を続けていました。今から思えばコロナ感染の第一波は小さかったのですが、渦中にあるときは、コロナ禍のスケール感もいつまで続くかも全く分からない中、多くの大学ではロックアウトまでなされる中、本学附属図書館は総合図書館、医学図書館共に開館を維持してきました。その中で、福井で自宅待機している他大

学の学生さんの利用があったとこのことで大学図書館としての役割を果たすことができました。これには図書館職員の熱い思いがあったことであり、非常に誇りに思います。

with コロナ、after コロナにおける大学図書館のサービスについて期待されることは何ですか？

コロナ禍の下での巣ごもり需要というのがありますが、図書館にもそのようなものが求められるかもしれませんが、コロナ後の世界がどのように変わってくるかによると思います。図書館に足を運ばないということが常態化するかもしれません。図書館には本を読む快適な空間を提供するだけでなく、もっと実質的なサービスが求められると思います。それが何に

なるのかを、これから考えてafterコロナを見据えていく必要があります。

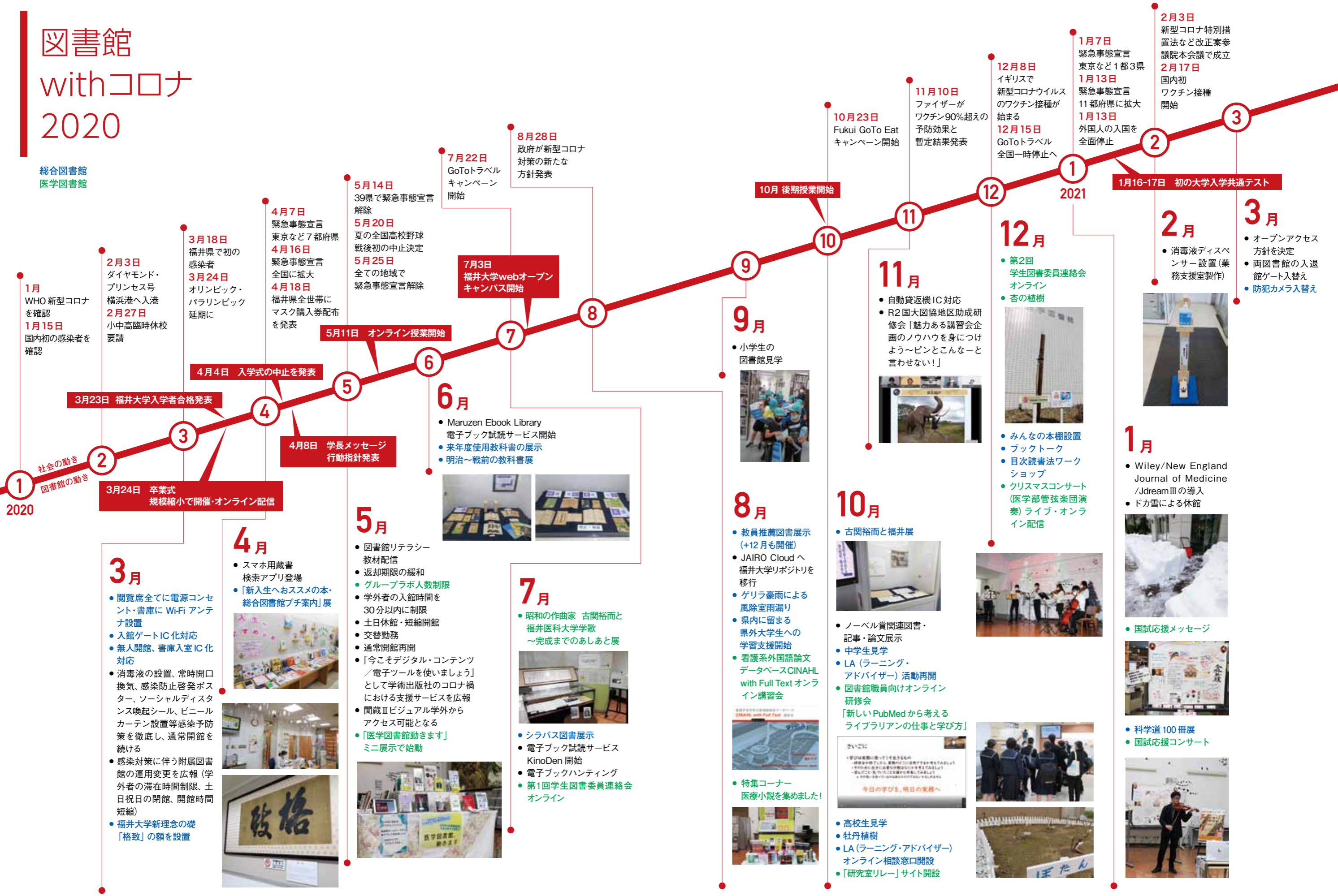
コロナ禍においても学生生活を少しでも豊かにするための図書館活用方法についてアドバイスをお願いします。

コロナ禍の中でも時間の使い方の工夫が学生生活を豊かにすることができるかもしれません。たとえば、NHKの番組の「ファミリーヒストリー」ではありませんが、私も自分の先祖がどこで何をしていたかを少しずつですが調べています。もともとライフワークのつもりで気の向くままに資料収集していました。まったく何もしない年もあれば、一歩も進まない年もあります。それでも最近は図書資料のアーカイブ化

が進んでいることもあって思わぬ拾い物もあり、その中から自分の先祖の名前が断片的に発見されることがあります。最近の収穫では山口大学の先生が30年前ほど前に書いた研究紀要の中に曾祖父の名前を発見することができました。図書館の電子化も進んでいることも大きくプラスに作用しています。これまでなら一生かかっても、そのような情報にたどり着くことは不可能だったと思うと静的なアクティビティですが、コロナ禍の今だからこそできることだと思います。アドバイスにはなっていませんが、皆さんもコロナ禍の中での時間の使い方を考え直してみてください。そして、そこに図書館の機能が役立つことがあるかもしれません。

図書館 withコロナ 2020

総合図書館
医学図書館



1月
WHO 新型コロナを確認
1月15日
国内初の感染者を確認

2月
2月3日
ダイヤモンド・プリンセス号
横浜港へ入港
2月27日
小中高臨時休校要請

3月
3月18日
福井県で初の感染者
3月24日
オリンピック・パラリンピック延期に

4月
4月7日
緊急事態宣言
東京など7都府県
4月16日
緊急事態宣言
全国に拡大
4月18日
福井県全世帯に
マスク購入券配布を発表

5月
5月14日
39県で緊急事態宣言解除
5月20日
夏の全国高校野球
戦後初の中止決定
5月25日
全ての地域で
緊急事態宣言解除

7月
7月22日
GoToトラベル
キャンペーン開始
7月3日
福井大学webオープン
キャンパス開始

8月
8月28日
政府が新型コロナ
対策の新たな
方針発表

10月
10月23日
Fukui GoTo Eat
キャンペーン開始

11月
11月10日
ファイザーが
ワクチン90%超えの
予防効果と
暫定結果発表
12月8日
イギリスで
新型コロナウイルス
のワクチン接種が
始まる
12月15日
GoToトラベル
全国一時停止へ

12月
12月8日
イギリスで
新型コロナウイルス
のワクチン接種が
始まる
12月15日
GoToトラベル
全国一時停止へ

2021
1月7日
緊急事態宣言
東京など1都3県
1月13日
緊急事態宣言
11都府県に拡大
1月13日
外国人の入国を
全面停止
1月16-17日
初の大学入学共通テスト

2月
● 消毒液ディスペンサー設置(業務支援室製作)
3月
● オープンアクセス方針を決定
● 両図書館の入退館ゲート入替え
● 防犯カメラ入替え

1月
社会的動き
図書館の動き

2月
2月3日
福井大学入学者合格発表

3月
3月24日
卒業式
規模縮小で開催・オンライン配信

4月
4月4日
入学式を中止を発表
4月8日
学長メッセージ
行動指針発表

5月
5月11日
オンライン授業開始

6月
● Maruzen Ebook Library
電子ブック試読サービス開始
● 来年度使用教科書の展示
● 明治～戦前の教科書展

9月
● 小学生の
図書館見学

10月
10月 後期授業開始

11月
● 自動貸返機 IC 対応
● R2 国大協地区助成研修会「魅力ある講習会企画のノウハウを身につけよう～ピンとこんなーと言わせない!」

12月
● 第2回
学生図書委員連絡会
オンライン
● 杏の植樹

1月
● Wiley/New England Journal of Medicine /Jdream III の導入
● ドカ雪による休館

3月
● 閲覧席全てに電源コンセント・書庫に Wi-Fi アンテナ設置
● 入館ゲート IC 化対応
● 無人開館、書庫入室 IC 化対応
● 消毒液の設置、常時開口換気、感染防止啓発ポスター、ソーシャルディスタンス喚起シール、ビニールカーテン設置等感染予防策を徹底し、通常開館を続ける
● 感染対策に伴う附属図書館の運用変更を広報(学外者の滞在時間制限、土日祝日の閉館、開館時間短縮)
● 福井大学新理念の礎「格致」の額を設置

4月
● スマホ用蔵書検索アプリ登場
● 「新入生へおススメの本・総合図書館ブチ案内」展

5月
● 図書館リテラシー教材配信
● 返却期限の緩和
● グループラボ人数制限
● 学外者の入館時間を30分以内に制限
● 土日休館・短縮開館
● 交替勤務
● 通常開館再開
● 「今こそデジタル・コンテンツ/電子ツールを使いましょう」として学術出版社のコロナ禍における支援サービスを広報
● 聞蔵IIビジュアル学外からアクセス可能となる
● 「医学図書館動きます」ミニ展示で始動

7月
● 昭和の作曲家 古関裕而と福井医科大学学歌～完成までのあしあと展

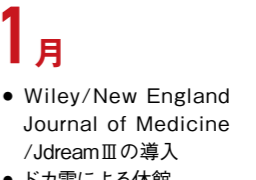
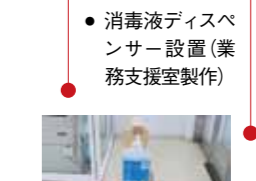
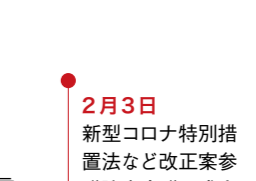
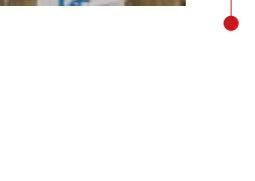
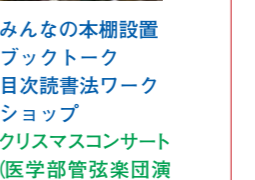
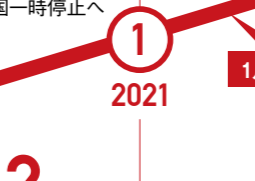
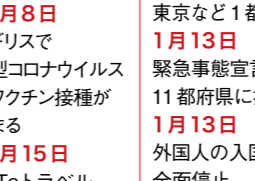
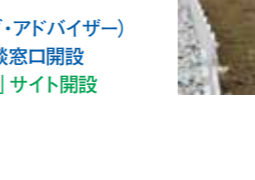
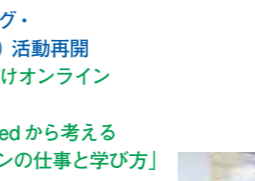
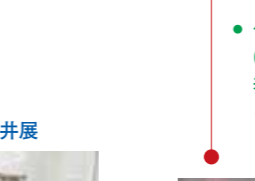
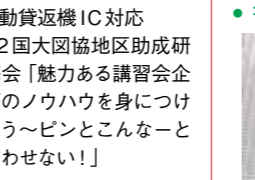
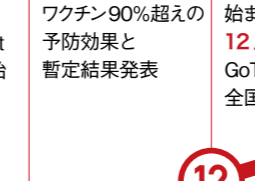
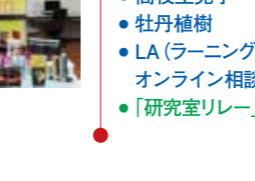
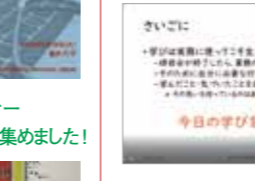
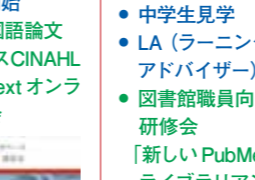
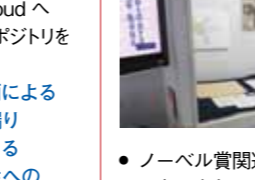
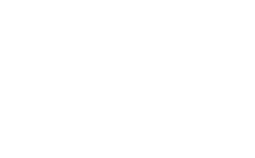
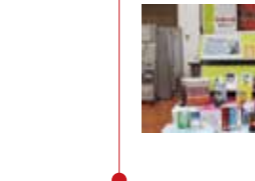
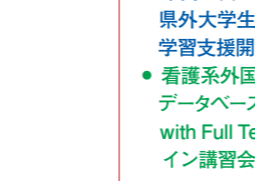
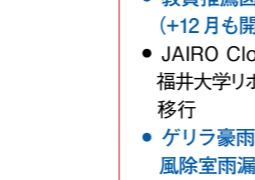
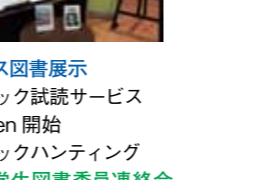
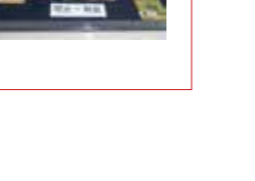
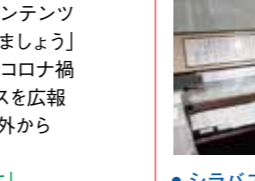
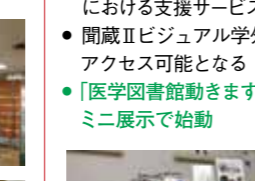
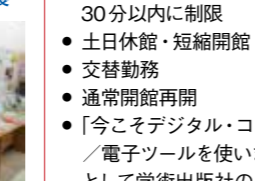
8月
● 教員推薦図書展示(+12月も開催)
● JAIRO Cloud へ福井大学リポジトリを移行
● ゲリラ豪雨による風除室雨漏り
● 県内に留まる県外大学生への学習支援開始
● 看護系外国語論文データベースCINAHL with Full Text オンライン講習会

10月
● 古関裕而と福井展

11月
● ノーベル賞関連図書・記事・論文展示
● 中学生見学
● LA (ラーニング・アドバイザー) 活動再開
● 図書館職員向けオンライン研修会「新しいPubMedから考えるライブラリアンの仕事と学び方」

12月
● みんなの本棚設置
● ブックトーク
● 目次読書法ワークショップ
● クリスマスコンサート(医学部管弦楽団演奏)ライブ・オンライン配信

1月
● 科学道 100冊展
● 国試応援コンサート



これは使える!

図書館に来なくてもできること
図書館に来た時も便利に使える
知っとくとお得なサービス



学生証（職員証）



無人開館時の入館・書庫の入室時は、IC化された学生証をかざすだけで解錠されます。
入館ゲートもかざすだけ!

※～2019年度入学者は図書館でIC化してください。
(医学部生は新生も各自でIC化してください)

自動貸出返却装置



IC対応。学生証をかざすと認証され、本を借りることができます。(一部できないものがあります)
貸出状況の確認や返却も可。

マイライブラリ



図書館HPのトップページ

図書館HPからログイン 設定・貸出状況の確認や変更ができるので、貸出期限の延長や貸出中圖書の予約、他キャンパス本の取り寄せができます。本のリクエスト、他大学の文献コピーや本の取り寄せも可能。

蔵書検索アプリ



- 蔵書検索**
蔵書検索の詳細検索はコチラから
- マイライブラリ**
圖書の返却期限の確認・延長や予約の手続き、文献依頼やリクエスト本の状況確認...etc
- 資料ID読み取り**
ISBNや資料に貼ってある資料ID/バーコードを読み取り、書誌情報を確認することができます。

スマホから蔵書検索などができて、ログインするとマイライブラリの機能も使える優れもの。
館内外で使いこなしてください。

使い方 アプリストアから“Ufinity”をダウンロードし、設定で“福井大学”を選択してください。

ラーニング・アドバイザー



総合図書館の学習支援の一環としての制度です。大学院生が履修のしかたやレポートの書き方、院への進学など、具体的にアドバイスしてくれます。このほか、学生生活の些細な相談ごとなどなんでも受け付けています。
対面だけでなく、オンラインでも対応可能です。
下のQRコードから予約できますので、気軽にご相談ください。



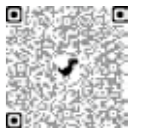
図書館お知らせツール



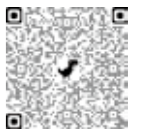
図書館ホームページ
flib.u-fukui.ac.jp



Twitter
総合図書館
[@LA_Fukui_Univ_L](https://twitter.com/LA_Fukui_Univ_L)



医学図書館
[@u_fukui_medlib](https://twitter.com/u_fukui_medlib)



新登場の電子リソース

今こそオンライン! よりよいサービスを提供できるよう
契約中のジャーナルを見直し、2021年1月から新たな
サービスが増えました



ライブラリエ

ライブラリエ



“小説をもっと増やしてほしい”という学生アンケートのご要望に応じて4月からLibrariEを導入することとなりました。まずは小説中心に始動しますが、利用状況を鑑み、就活本など実用書も増やしていきますので、ぜひご活用ください。

※学術系図書の電子ブックサービスとして、Maruzen eBook Libraryに加え、2020年には、KinoDenが加わり、試読+リクエストを随時、行っております。こちらもご活用ください。

<https://www.d-library.jp/flib/>

Dream III

ジェイドリームスリー



科学技術や医学・薬学関係の国内外の文献情報を提供している日本最大の科学技術文献データベースです。

【特長】

- ・国内/海外の科学技術文献の全分野を収録
- ・論文ごとに抄録、キーワード索引が付与されているため検索しやすい
- ・海外文献にも、日本語でタイトルや抄録が作成されているため、日本語検索ができる
- ・科学技術分野シソーラスとの連携により、同義語などの検索キーワードを発見でき、検索効率を上げられる

<https://jdream3.com/>

SciFinder^N

サイファインダー・エヌ



SciFinderの後継サービスであり、高度な検索エンジンとシンプルなインターフェースで、論文・特許に加え、世界中の化学物質および有機化学反応情報を広く検索できます。
(利用には学内ネットワーク環境下でのID登録が必要です。)

<https://scifinder-n.cas.org/>

※SciFinder (<https://scifinder.cas.org/>) も引き続き利用できます。

Wiley Online Library

ワイリーオンラインライブラリー



Wiley Online Library上にある理工医学から人文社会科学まで幅広い分野のジャーナルが利用できます。
ジャーナル数：約1600誌
範囲：1997年から最新号まで

<https://onlinelibrary.wiley.com/>

学外からは学認利用のこと

The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE

ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスン



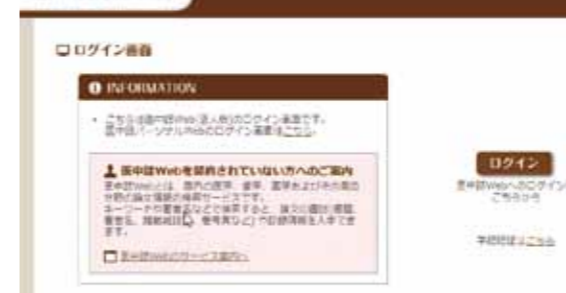
医学系定期刊行物の中で、世界で最も長い歴史を誇り、最も読まれ、最も引用され、影響力があるとされているNew England Journal of Medicineがオンラインで読めるようになりました。

<https://www.nejm.org/>

松岡キャンパス外からの利用にはIDの取得が必要です。
学内ネットワーク環境下にてご登録ください。

医中誌Web

Japan Medical Abstracts Society



4月から学認 (GakuNin) を利用して学外からもアクセス可能となりました。医中誌Webとは国内医学論文情報のインターネット検索サービスです。国内発行の医学・歯学・薬学・看護学及び関連分野のジャーナルのべ約7,500誌から収録した約1,400万件の論文情報を検索することができます。

<https://login.jamas.or.jp/>

新書を読もう



福井大学語学センター日本語教育部

准教授 **膽吹 覚**

IBUKI Satoru

生年：1967年 出身：滋賀県
 専門：書誌学・図書館史、日本文学
 好き：ミステリーとホラー
 苦手：高いところ

本学総合図書館3階、閲覧室の南西の壁一面にずらりと新書が配架されている。新書は縦17.3cm、横10.5cmの縦長の大きさの書籍、及びその叢書のことである。概して新書は現代の研究者・作家が**現代的な問題を取り上げて、それを平易な言葉で解説したものが多い**。このために新書は高校生や大学生の課題図書にしばしば選定される。本学の図書館に新書が多く架蔵されているのもそのためである。

日本の新書の歴史は**岩波新書**(岩波書店)から始まる。岩波新書の刊行は昭和13年(1938)11月であった。日本はこの年の5月に国家総動員法が施行され、12月には日本軍が中国の重慶への爆撃を開始した。岩波書店社長の岩波茂雄は、こうした社会情勢を踏まえて、「岩波新書を刊行するに際して」と題した小文で「武力日本と相並んで文化日本を世界に躍進せしむべく努力せねばならぬことを痛感し、「今ここに現代人の現代的教養を目的として岩波新書を刊行せんとする」と宣言している。岩波新書が「現代的教養」を目的としたことは、同社の岩波文庫が「古典的価値ある書」の普及を目指したのとは対照的である。そして、この「現代的教養」が、その後、日本で相次いで刊行される新書に通底するキーワードとなる。小林勇『惜椽荘主人——1つの岩波茂雄伝——』(講談社文芸文庫)に拠ると、岩波新書について茂雄は「(岩波)文庫は古典だ。今度のやつ(岩波新書)は今の問題を、今の人に書いてもらうのだ。大体寿命はあまり長なくてよい。生き生きとした問題をつかまえるのだ」(p234)と熱く語っていたという。茂雄の「寿命はあまり長なくてよい」「生き生きとした問題をつかまえる」と

いう言葉は、今日の新書が持つ特性をすでに規定していたといえるだろう。

このように新書は、その時代に必要とされる教養、言い換えればその時代の現代的課題が反映されている。2020年は新型コロナウイルス感染が現代的課題となった。2020年から2021年にかけて出版される新書は、この問題を扱ったものが相次ぐであろう。

さて、本学総合図書館には岩波新書をはじめ、**中公新書**、**講談社現代新書**、**講談社BLUE BACKS**、**丸善ライブラリー**、**ちくまプリマー新書**などが配架されている。以下、各新書の特徴と私がお勧めする本をいくつか紹介しておこう。

岩波新書は新書の老舗だけあって、幅広いジャンルの書籍が揃っている。近刊本から選んでみると、増井元『辞書の仕事』(2013)は『広辞苑』の編集に携わった編集者による**辞書作りの現場**が描かれていて興味深い。田中宏『在日外国人』(2013、第3版)は外国人学校をめぐる諸問題が取り上げられており、**教育学部・国際地域学部の学生**には一読をお勧めする。中野三敏『和本のすすめ』(2011)は和本(和紙で作られた本)の歴史や作り方、出版事情などを説いたもの。**書物に興味のある方**にお勧めです。小長谷正明『医学探偵の歴史事件簿』(2014)は歴史上の人物や事件を病氣(医学)の視点から推理したもので、**医学と歴史学の取り合わせの妙味**が楽しめる1冊である。一風変わったものに『**岩波新書解説総目録1938-2019**』(2020)がある。本書はその書名のとおり、1938年から2019年までに出版された岩

波新書の目録である。この目録に記載された書名を年代順に見ていくと、その間の**日本の現代的課題の変遷**を把握することができる。出版社が刊行する書籍目録は味気のないものの代表のように考えている人もいるようだが、しかし、それは見方によってはたいへん興味深い読み物なのである。

中公新書(中央公論社)創刊は岩波新書に次いで古く、昭和37年(1962)であった。中公新書も岩波新書と同様に幅広いジャンルにわたるが、特に**歴史学(文化史)**に注目すべき本が多い。最近では呉座勇一『**応仁の乱**』(2016)が**ベストセラー**になったことはご存知の方も多であろう。本田良一『**イワシはどこへ消えたのか**』(2009)は**Regime shift**を分かりやすく説いたもので、地球環境と経済活動の関係を考察した本である。また井上栄『**感染症**』(2006)は**感染症全般に関する入門書**で、新型コロナウイルス感染防止を考える上で有益な書である。本書は2020年4月に新型コロナウイルスに関する章を加筆して、増補版として刊行されている。このように現代的課題と合致する場合は、既刊本を増補・改訂して出版されることがある。

講談社現代新書は昭和39年(1964)に創刊された。講談社現代新書は**現代思想**、**心理学**、**サブカルチャー**に関するものが多い。近刊本では佐藤健太郎『**ふしぎな国道**』(2014)が抜群に面白い。鉄道マニアならぬ国道マニアによる、**これぞサブカル**と唸らせる1冊である。三中信宏『**分類思考の世界**』(2009)は生物系統学の本であるが、哲学的な示唆に富んだ1冊である。生物学に関する話題が読者の脳内でいつしか**哲学的課題へと移行**してしまう。野本陽子『**ハッブル望遠鏡 宇宙の謎に挑む**』(2009)は美しい写真(カラー)を見るだけでも十分価値がある。ハッブル望遠鏡は地球上空の軌道を周回する**宇宙望遠鏡**である。

講談社BLUE BACKSは**自然科学に特化**した新書である。〈マンガ〉シリーズや〈教科書〉シリーズなどは、**科学が苦手な人**にこそ読んでほしい。また宮野公樹『**研究発表のためのスライドデザイン**』(2013)はゼミや学会でのプレゼンテーションに有益な本であり、**みなさんに是非読んでいただきたい**。なお、畔上道雄『**推理小説を科学する**』(1983)はEdgar Allan Poeや松本清張など

の推理小説で使われている**トリック**(いわゆる密室や不可能犯罪など)を**科学的に検証**したもので、ミステリー・マニアにはよく知られた1冊である。

ここで**〈新書大賞2020〉**(中央公論社主催)に輝いた**トップ5**を紹介しておこう。未読の方にはこちらも一読をお勧めする。

- 大賞：大木毅『**独ソ戦**』(岩波新書)
- 2位：宮口幸治『**ケーキの切れない非行少年たち**』(新潮新書)
- 3位：松岡亮二『**教育格差**』(ちくま新書)
- 4位：小熊英二『**日本社会のしくみ**』(講談社現代新書)
- 5位：山口慎太郎『**家族の幸せの経済学**』(光文社新書)

最後に新書の使い方について一言述べておきたい。冒頭で述べた通り、新書はいわゆる概説書であり、入門書である。ゆえに学生諸君には、新書は専門書への入り口であるとして読んでほしい。新書の巻末には必ず**参考文献一覧**が付録されている。1冊の新書を読み終えたなら、そこで満足するのではなく、巻末の参考文献の中から次の1冊を選び、より専門的な知識を学んでほしい。**新書とは学問の入り口であり、次のステージへの架け橋なのである。**



絵図をつくる人びと

一元禄9(1696)年、野中村・玉江村畔道論所絵図から

教育学部社会系教育講座

教授 長谷川裕子

HASEGAWA Yasuko

生年：1972年 出身：千葉県
専門：日本中世史(戦国時代から江戸時代前期の村・民衆生活に関する研究)
コロナ禍で始めたこと：宅トレ・DIY・Zoom 飲み会

旅であれ、買い物であれ、散歩であれ、人がどこかへ移動する際に必要となるアイテムが地図である。GPS衛星の発達によって、現在では行きたい場所の正確かつ詳細な位置は、タブレットやスマートフォン、カーナビなどのデジタルツールによって瞬時に確認できる。あらかじめ紙の地図を準備するなどの煩わしさから解放され、しかもカーナビはもちろん、スマホの地図アプリには音声ガイド機能も付いているため、案内に従って進むことであまり道に迷うということもなくなったといえる(地図を読むことが苦手な人は、それでも迷うこともあるようだが)。

とはいえ、やはり地域の細かい情報や地形的な特徴を知るためには、それ相応の地図を参照することが不可欠である。例えば、**歴史研究**においては、地域の歴史を紐解くために現地のフィールドワークを行うが、その際には**地形図**や**住宅地図**は必須であるし、さらには**明治期に作られた地籍図**や**江戸時代の村絵図**などがあれば、地域の歴史的風景を復元するための有効な手がかりとなる。**地籍図**とは、明治政府が近代化政策の一環として行った土地の税制改革(地租改正)において、土地の証書となる地券の発行に備えて作成された地図である。一筆ごとの土地を測量して面積を確定し、道や川、地番や地目(土地利用の種類)が村及び小字単位でまとめられた「村限図」「字限図」と呼ばれる地図の総称で、**明治初期**には数度にわたって全国的に**地籍図**が作成された。なかでも、明治5(1872)年の地券発行のため、約600分の1という縮尺で描かれた「壬申地券地引絵図」(地券取調総絵図)は、なかには6畳間には入りきらないほど大きなサイズのものもある。これらの地籍図は、現在では各地の役所や法務局に保管されているほか、地域の

公民館など、地域の人びとによって大切に保管されているものも多く、江戸時代の村の様子を知るための格好の資料として利用されている。

福井大学附属図書館が所蔵する「小島家文書」のなかにも、小島家の居村であった野中村(坂井市三国町野中)とその周辺の**地籍図が複数残されている**。例えば、明治5年11月に作成された「野中村絵図」(2404号文書。以下、「小島家文書」については目録番号のみを示す)には、一筆ごとの土地の区画とその地番、土地利用の様子が細かく書き込まれている。

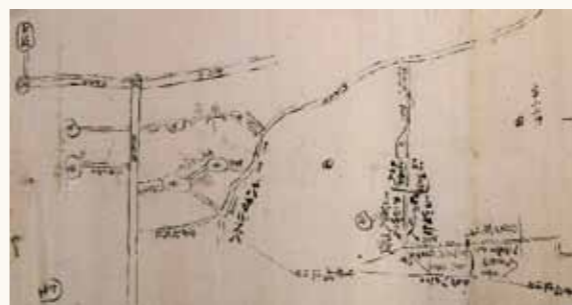


国土地理院地形図(電子地形図25000より)

現在の**地形図**と比較してわかるように、野中村のおおよその区画は、江戸時代以来さほど変化はみられない。

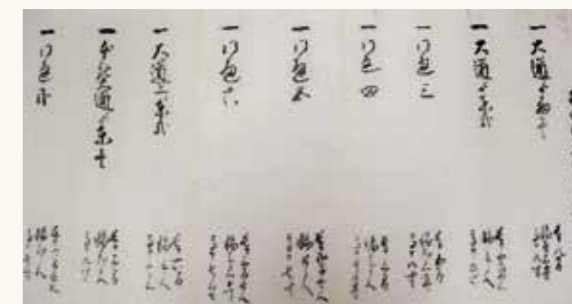
地籍図に赤で囲った部分は「宮地」と書かれていて、現在の地形図にもほぼ同位置に春日神社が祀られている。灰色に塗られた屋敷地も、現在の地形図のオレンジ色の部分に相当することから、ほぼ集落の位置は動いていないことが分かる。また、地籍図からは、現状より土地が細かく区割りされていたことも確認できる。現在は**圃場整備**が行われ、大きな区割りの田地となっているが、江戸時代には屋敷地以外の土地は「田(黄色)」「畑(緑色)」「葦野(茶色)」など、**多様な土地利用**が行われていた。特に、南西にまとまって茶色で塗られている「葦野」には、葦が生育していたと考えられるが、葦は河川や湖沼などの水辺に群生することから、この区画は水を多く含む湿地であったことが予想される。葦は、葦簀というすだれに加工されるほか、田地の敷き草や稲の肥料として用いられていたことから、田地や畑の肥料として育てられていたのかも知れない。このように、地籍図は昔の**村の人びとの暮らしや景観を視覚的に蘇らせ、私たちの想像をかきたてる魅力的な資料**といえる。

では、江戸時代の人びとは、どのような時に絵図を作っていたのだろうか。絵図が必要となる場面はいろいろあるが、現存する絵図のなかには、**もめごとや訴訟のための参考資料**として、あるいは**解決した相論の結果を後世に伝えるための記録資料**として作成されたものも多い。「小島家文書」に「野中村・玉江村畔道論所一件」(2405)として一括されている文書のなかには、元禄9(1696)年に野中村と玉江村との畔道をめぐる**相論の際に作られた絵図**が含まれている。



野中村の庄屋・長百姓等の主張によれば、野中村と玉江村の間にある畔道の上に、玉江村が「置土」をするので、洪水の際に野中村に水があふれてしまい、困っているという。畔道を高くしてしまうと、野中村に集まった水を周辺に逃がすことができなくなるのであろう。対する玉江村は、畔道は田畑への肥やしとなる草を生やし、また牛馬が通る道でもあるので置土などはしていないと主張したため、両者の争いは越前国の幕領において野中

村の小島家と同様に大庄屋を務めた大牧村と米納津村の組頭が仲裁に入り解決することになったようで、双方の庄屋・長百姓とともに畔道を逐一検分した記録も残されている。



この文書によれば、彼らは野中村の西側から東に向けて歩き、各畔道の長さ・幅・高さを計測していることがわかる。元禄9年5月9日に作成された上記の文書は、検分後に作成されたと考えられるが、この文書を作成するために**検分時に現地に持って行ったのが先ほどの絵図**である。あらかじめ描かれた絵図を持ちながら現地を歩き、そこに畔道の長さ・幅・高さを書き込んだようで、絵図には筆跡の乱れた文字が記されている。結局、この相論は同年10月4日に双方の庄屋・長百姓等が署判し、検分した時の畔道の状態を維持することで和解したが、この絵図の写しが弘化4(1847)年7月にも作成されていることからわかるように、**相論の結末を村人たちに長く伝えていくための重要な証拠**として絵図が大事にされていたことがわかる。なお、野中村と玉江村とは、実は貞享5(1685)年6月にも畔道をめぐって相論となっていた。この時は、玉江村が新道を造成したことについて、野中村から幕領代官に訴訟が提出され、近隣五ヶ村(楽円村・竹松村・今市村・角屋村・藤沢村)に仲裁(内済)が命じられたようである。

このように、絵図は事の顛末を記した文章だけではわからない**昔の人びとの暮らしを立体的に見せてくれる、歴史研究の重要なアイテム**なのである。

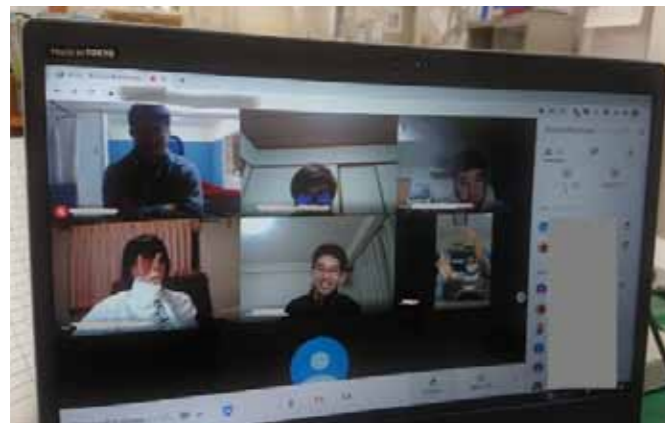
小島家文書とは

越前国坂井郡野中村(現在の坂井市三国町)の大庄屋であった小島家に伝わる江戸時代中・後期を中心とした文書群。6,000点以上あり、年貢の実務、農業日誌、百姓の実生活など越前の近世史を如実に語る素材でもあります。資料閲覧には許可が必要ですが、デジタル版をホームページ上で公開しています。

学生・教員とのコラボ企画

学生図書委員会：医学図書館

7月16日 4名 12月2日 8名



登学制限からのオンライン授業が徐々に軌道に乗り始めた中、ようやく1回目を開催。ネットを介して学生委員の面々が集い、近況報告後、本の郵送貸出や電子ブック活用等の意見交換、次回は新入生目線の意見をもらうためにも参加を呼びかけようとなりました。

2回目は、1年生を交えて開催。初めましての自己紹介後、図書館からの相談に対し、参加者全員から建設的な意見や要望が次々と出されました。

その中の「**利用頻度の高い本は複本購入**」「**貸出冊数上限を10冊に**」は実施することとなり、「やってよかった」感のある実りある会となりました。

目次読書法ワークショップ

12月21日 参加者 9名



工学部創成教育「本を楽しむ会」と共に開催しました。講師のイシス編集学校の小川玲子氏は東京、受講者は総合図書館、医学図書館、自宅からZoomで受講となりました。

目次読書法の手順に倣い、表紙、目次、初章…を各人で、次はグループで本の紹介、最後は全体でプレゼン、と「普通の読書」とは一味も二味も違う本の味わい方が次々と紹介され、参加者は挑戦していききました。

「本を通じて年齢や職業を越えて話せたことが貴重な体験」「他の人が紹介した本まで読んで気持ちになった」といった感想が寄せられました。

総合図書館で、学生がまちづくりに挑戦する「**学生まちづくり班**」プロジェクトの企画が2件、総合図書館において実施されました。

〳〵白田雄一くん（国際地域学部2年）による〳〵

ブックトークイベント

12月19日 参加者 6名



コモンズに、学生たちがお気に入りの本を持ち寄り、本に寄せる思いを語り合いました。サスペンスやラブストーリー、写真集などさまざまなジャンルが登場し、あえて対面形式で、紙本を持ち寄るということで、聞き手の反応が楽しめて「本」が好きという気持ちも共有できたとのこと。今後は、書店や公共図書館ともコラボするなど活動の幅を広げ、誰もが気軽に立ち寄り、本を介して自由に語り合える場を作るのが目標だそうですので、次の開催が決まりましたら、図書館からお知らせいたします。

〳〵橋本麻那さん、平澤樹奈さん（国際地域学部3年）による〳〵

みんなの本棚 12月中旬設置



学生が不要になった本や欲しい本をやり取りできる本棚が設置されました。本棚は自らデザインしたもので、赤いさんかく屋根が目印です。

約20日間で32人が利用し、学習跡が残る先輩の教科書が後輩へ譲られるなど約60冊のやりとりが生まれました。コロナ禍で交流が薄れる中、次に本を開く人へのメッセージが書けるしおりを用意し、本にまつわる思いが繋がります。この非対面のできるリユースの仕組みがエコ意識の輪となって広がると嬉しいとのこと。

これを読んでいるあなたもぜひ、しおりに思いを綴って譲ってみてはいかがでしょうか。

RECOMMEND BOOKS

先輩から新入生へのおススメ本
14頁のブックトークイベントでの本も登場

『リスク・リテラシーが身につく統計的思考法 初歩からベイズ推定まで (数理を愉しむシリーズ)』



ゲルト・ギーゲレンツァー 著
吉田利子 訳
早川書房, 2010
医図-2F閲覧室 2 417||2010

“数字について考えるのは難しいとあきらめる必要はない” 乳がん検診などを例にリスクを正しく知り、どうしたら分かりやすく伝えることができるかという本です。統計は面白くないなど思っている人やこれから統計を勉強する人におすすめです。

内田 待望 (医学科4年)

『選ばれる女におなりなさい デヴィ夫人の婚活論』



ラトナ・サリ・デヴィ・スカルノ 著
講談社, 2019

デヴィ夫人の自伝。彼女の波瀾万丈の人生を概観しながら、くよくよしないで年齢に関係なく、突き進みなさいと背中を押してくれます。男性にもおすすめの一冊。

橋本 麻那 (国際地域学科3年)

『リアル』



井上雄彦 著
集英社, 2021-

スラムダンクを描いたことで有名な井上雄彦先生が作者です。主に車いすバスケットボールを題材に、障害を持った選手とその周りの人々の生き様や考えが当事者目線で「リアル」に描写されています。そして、障害者であろうとなかろうと、今を全力で生きることの重要性を痛烈に伝えています。この漫画を読むことで、いま生きているという現実、つまり「リアル」と、その傷さを改めて考えるいいきっかけになると思います。(なお、出版から20年以上、まだ完結していません…)

宮田 海生 (医学科1年)

『青年のための読書クラブ』



桜庭一樹 著
新潮社, 2007

ある女子高で起こった珍事件や変わった出来事を「読者クラブ」の部員が「秘密のクラブ誌」に書き残し受け継いでいくという話です。珍事件を通して、思春期の少女特有の残酷さや激しい感情などが描かれていますが、作者の個性的な語り口によってコミカルで面白いものになっています。「マクベス」など有名な小説の内容に絡めているので本好きな方におすすめです。

久保 あかり (看護学科3年)

『桜のような僕の恋人』



宇山佳佑 著
集英社, 2017

純愛小説を読みたい方、狂おしく切なく…思い切り泣きたい時にどうぞ。
S.M. (国際地域学科2年)

『博多豚骨ラーメンズ』



木崎あき 著
KADOKAWA, 2014

博多の裏社会を生きる暗殺者たちの知られざる素顔とは…登場人物がどれも個性的で面白く、次々読み進めたいくなるシリーズです。ちょうどいいハードボイルド感が、疲れているとき元気をくれます。

Y.T. (国際地域学科2年)

『もしも一年後、この世にいないとしたら。』



清水研 著
文響社, 2019
医図-2F閲覧室 1 QZ201||2019

がん患者に向き合う精神腫瘍医の先生の診療経験に基づく1冊です。限りある生を意識することで、自分の感情に向き合い、与えられた1日1日を大切に過ごすことができる。死を意識することで、むしろ焦りが募る面もあるかもしれませんが、この本に登場する多くの患者さんの体験談から気づかされることがありました。病気に向き合う患者さんだけでなく、昨今の世情もあり、多くの人が各々不安や問題を抱えているかと思います。私にとっても、自分の生き方や存在価値について見つめ直すきっかけにもなりました。そう書くと堅苦しい本のように思われるかもしれませんが、親しみやすい文章でえがかれていますので、一気に読めて後々まで心に残る1冊かなと思います。

宇貞 歩 (医学科3年)

『罪の声』



塩田武士 著
講談社, 2019
総図-3F閲覧室 913.6||SHI

実際にあった未解決事件をもとにした小説で、知らない間に事件に加担していた曾根と新聞記者の阿久津、2人が主人公です。事件の真相を探る中で阿久津が「自分はどのような記者であるべきなのか」を悩み、自分なりの答えを見つけていく姿がとて心に残っています。ミステリー好きの方はぜひ読んでみてください!

平澤 樹奈 (国際地域学科3年)

『笑う科学 イグ・ノーベル賞』



志村幸雄 著
PHP研究所, 2009

総図-GLPコーナー (3F) 377.7||SHI

笑えるようなことについて真面目に取り組み姿勢に心打たれ、研究の本質について考えさせられます。今後実験や講義で得た知識で、自身の興味あることを研究する際に、やはり楽しむことが大切だと思わされます。一人で楽しむのもよし、友人と話のネタにするのもよし、これを読んで理系の大学生活を充実させてください。

田中 深太 (物理学専攻2年)

『孤島の鬼』



江戸川乱歩 著
落合教幸 監修
春陽堂書店, 2015

乱歩の最高傑作と名高い作品。終盤が特に面白いです。タイトルの意味が判明する時が何とも気持ちが良いです。一気に読ませられました。

白田 雄一 (国際地域学科2年)

研究室リレー紹介



医学図書館ラウンジにて 医学部の研究を紹介しています。

旧来の研究室を紹介する「医学部NOW」や「ノーベル生理学・医学賞」の関係論文と説明の展示から端を発し、加えて学生の皆さんからの後押しもあり、2019年初春に走り始めた「研究室リレー」も第11走者となりました。

日々集うラウンジにあるため、「研究」がより身近に感じられて理解が深まり、将来の進路についても視野が広がるきっかけとなるのではないのでしょうか。英語論文にも興味をもてるのではと期待しています。リレーの内容は、学部生に向けた「私の研究室ではこんな研究をやっています」を、投稿した論文または学会発表の研究結果と共に展示。毎回、研究室から研究室へバトンを渡すリレー形式で行っています。次の走者は誰になるのか、毎回私たちも楽しみにしています。

より詳しい情報
をご覧ください



https://www.flib.u-fukui.ac.jp/igaku/researchlab_info

福井大学リポジトリとは



福井大学リポジトリトップページ



福井大学リポジトリでは、大学の研究成果を 集めてwebサイトで公開しています。

2020年8月、JAIRO Cloudにリポジトリを移行し、リニューアルされ、本学刊行物をマガジン形式で一覧できるなどビジュアル性が向上しました。福井大学では誰がどんな研究をしているのか、これまでどんな研究がされてきたか、氏名やキーワード、発行誌などから検索し、実際に論文を読んでみて、やりたいこと、やれること、どこで、どうやって…福井大学での研究生活にお役立てください。(本文非公開の論文はご連絡ください)

より詳しい情報
をご覧ください



<https://u-fukui.repo.nii.ac.jp/>

ご寄贈いただき
ありがとうございます。

今年度、寄贈された教員著書です。

このほか、学生の皆さんの保護者による後援会からの寄付金により毎年多くの本を購入しております。

皆さまからのご支援に深く感謝し、利用者の皆様によりよいサービスを提供できるよう、有効に活用してまいります。



『Pythonで学ぶ はじめてのAIプログラミング
自然言語処理と音声処理』
小高知宏 著 オーム社, 2020

『英語構文を分析する』上・下
Andrew Radford 著 ; 金子義明, 島越郎 翻訳 開拓社, 2020

『マルトリ予防のすすめ 脳科学から考える』
島田浩二, 矢尾明子, 友田明美 著
福井大学子どもこころの発達研究センター, 2020



『マルトリに対応する支援者のためのガイドブック
子どもの脳とこころがすくすく育つ』
榊原信子, 椎野智子, 友田明美 著
福井大学子どもこころの発達研究センター, 2020

『マルトリートメント(マルトリ)が脳に与える影響
映像テキストブック』
友田明美 著
福井大学子どもこころの発達研究センター, 2020

● これまでの教員寄贈著書はこちら



マンガ@附属図書館

先輩からのおススメ本でマンガが紹介されていましたが、総合・医学両図書館においてもすっかり市民権を得ています。

マンガをこよなく愛する太っ腹課長監修の下、ここ1、2年で、より充実したマンガコレクションが寄贈・構築されました。

文字だけだと取っ付きにくい内容もマンガだとすんなり入ってくることも。

息抜きで読むのはもちろん、がっつり読みに来てください。



ラウンジ@総合図書館 (館内利用)



休憩コーナー
@医学図書館 (館内利用)



一般開架@医学図書館 (貸出可)